

南部久子様を千里山にお訪ねして

十八回生 寺澤 美代子

昨年度の第十三回千里山会総会から約二ヶ月後の十二月七日に、私は再び、千里山のお宅に南部久子様をお訪ね出来る機会を得ました。

総会ご出席のため、日帰り上京という強行軍をなさったあとのご様子は如何だったのかと案じながらの訪問でしたが、変わらぬ明るい笑顔と前回お会いしたときより更にお元気そうなお様目に、まず安心致しました。

久子様は昨年二月、ご自宅前でタクシ―降車時に起きた予期せぬお怪我のあと、総会出席を願う強い熱意を持ってリハビリに取り组まれました。その結果、当時過ごされていた介護施設から上京を果たされたのですが、十一月末にはご自宅に戻り、自立の生活を取り戻しておられました。

東京に来られた頃の歩行は、介添えがあつて数歩という状態で、会場でも不本意ながら車椅子を使つておられました。その後のリハビリの成果からご自宅では、伝い歩きながら一人で動き回つておられ、その前向きなお姿に改めて敬服いたしました。

久子様は98歳という高齢でいらつしやること信じられないほどの若い気分と気力をお持ちで、東京の総会会場でも多くの会員の方々から「元気を貰った」との声を聞いておりました。総会出席の夢を実現して下さったことは、千里山会に取りましても本当に有難かつたと感謝の念を新たにいたしました。

私は再び久子様とお会い出来て、元気を貰うどころか、背中を強く押されるほどの気力を頂き、久子様の更なるご健康を念じながら帰京致しました。



一緒に迎えて下さった山本道子さんと共に、近くのフランス料理店で馳走になりながら、総会での思い出——アルボレーダさんとの感激のご対面、温かく感動的だったアルボレーダさんのスピーチ、懐かしい旧知の千里山会々員の方々との嬉しい再会のことなど——楽しい話題に午後のひと時を過ごさせて頂きました。

この「南部久子様を千里山にお訪ねして」をお寄せ下さった寺澤美代子様について坂田知子様が思い出を語つてくれました。

寺澤美代子様に寄せて

二十七回生 坂田 知子

昨年の千里山会誌を拝見していて、とても懐かしいお名前、寺澤美代子様の記事が目にとまりました。私は中学二年生の時、英語の個人レッスンを受けていました。当時、新婚の寺澤様は千里山の出来たばかりの公団住宅にお住まいでした。寺澤様には中学校の英語よりもちよつと高いレベルの内容まで丁寧にご教えて頂き、今思うととても贅沢な時間を過ごした気がします。今日はどんな事を教えて頂けるのかなと、少しの緊張とワクワク感を抱いて通っていました。が、間もなくお子様がお生まれになり、一年間位でその楽しいレッスンも終了しました。

あの遠い日々を寺澤様は覚えていらつしやいますでしょうか。